

地 域 再 生 計 画

1、地域再生計画の名称

越路・小国地域の優れた自然環境と観光資源が広域的に連携した観光交流ネットワーク計画

2、地域再生計画の作成主体の名称

新潟県、長岡市

3、地域再生計画の区域

長岡市の区域の一部（越路地域及び小国地域）

4、地域再生計画の目標

長岡市は、平成 17 年 4 月 1 日と平成 18 年 1 月 1 日の 2 度にわたる市町村合併を経た、面積約 8 4 0 k m²、人口約 2 8 万 3 千人の都市である。平成 19 年 3 月には、新市の長岡市総合計画を策定し、「前より前へ！長岡 人が育ち地域が輝く」を合言葉に、合併した各地域の特性を尊重し、地域資源を活用したまちづくりを展開している。

越路地域及び小国地域は、本市の南西部に位置し、信濃川の支流である洩海川沿いに肥沃な平坦地が広がり、その両側に丘陵地が形成されている。面積約 145 k m²（17.1%）、人口約 2 万 1 千人（7.3%）の地域であり、農林業が基幹産業として営まれ、それに付随した農産物を原料とする企業なども立地してきている。さらに、近年はグリーンツーリズム事業の一環として、恵まれた自然や風土を活かした地域滞在・体験型観光を推進している。

しかし、当地域の大事な基幹産業である林業も、高齢化や担い手不足と林道の未整備があいまって、多くを低質な広葉樹の天然林が占めていることから、森林整備の促進が課題となっている。

また、観光においても、地域内に数多くの魅力ある観光資源を有しながらも、地域の東側を通る関越自動車道は通過しているのみであるため、それらの観光資源が十分に活かされていない状況であり、高速道路の有効活用など、効率的な道路整備が求められている。

このような状況のなか、当地域は、平成 16 年の中越大震災によって甚大な被害を受け、復興に取り組んでいるところであるが、創造的復興を実現するためにも、観光振興が必要となっている。

そこで、当地域の基幹産業である林業を再生するとともに、恵まれた森林資源を林業体験、農村文化学習フィールドや森林レクリエーションの場として活用するため、

林道と市道を一体的に整備し、地域の観光資源とも連携した観光交流ネットワークを創出するものである。結果、近年の多様化する旅行の目的や移動手段、旅行先での行動に応える「周遊型」・「滞在型」・「体験型」を兼ね備えた地域となり、より一層の観光客の増大が期待されると共に、中越地震からの復興も支援し、地域の活力向上に寄与するものである。

(目標 1) 森林整備面積 (実績 44ha⇒目標 57ha 30%増加)

(目標 2) 観光客入込客数 (震災前 442,850 人→震災後 (H17 年度) 289,270 人⇒目標 500,000 人)

(目標 3) 広域観光ルートの形成 (従来ルート 78 分⇒将来ルート 62 分 観光ルート 16 分短縮)

5、目標を達成するために行う事業

5-1 全体概要

長岡市小国地域 (旧小国町)、同越路地域 (旧越路町)、柏崎市に跨る八石山系は、戦後、造林等が推進された地域であるが、広域の林地や道路を結ぶ路網が形成されていなかったため、管理の手が届かず、人工林はわずか 124ha に留まっている。森林基幹道八石山線及び森林管理道八石山南線は、この地域を縦貫する基幹林道であり、これらの林道の整備により、容易に森林に入ることができ、これまで管理できなかった森林を整備することができるようになる。

また、両路線は地域の優れた自然環境を活かした森林レクリエーションのアクセス道路としても利用でき、周辺の優れた観光資源と連携した観光交流ネットワークの一角を担うこととなる。

市道越路 121 号線ほかは、関越自動車道長岡 IC と小千谷 IC のほぼ中間に位置する高速越路バス停と主要地方道柏崎・高浜・堀之内線を連絡する市道である。この道路整備により、高速道路を利用して当地域を訪れる観光客にとっては、観光施設へのアクセス性が向上し、移動時間の短縮により滞在時間の延長が可能となる。

長岡市の中心部や高速道路へのアクセス向上を目的として整備が進められている越路原バイパス (東谷ルート) の一部である市道越路 817 号線は、国道 404 号の災害時等の緊急代替路となるほか、観光資源へのアクセス道としても機能をはたす。

このように、林道と市道を一体的に整備することにより、効率的な観光交流ネットワークを形成することが可能となり、当地域の観光・交流産業の振興を図ることができる。

5-2 法第 5 章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

・市道：市道越路 121 号線ほか 平成 19 年 12 月 25 日変更認定

- | | | |
|--------------------|---|--------------------------------|
| | 市道越路 817 号線 | 平成 20 年 3 月認定予定 |
| ・ 林道 | ： 林道八石山線 | 平成 15 年 4 月 1 日中越計画区地域森林計画策定 |
| | 林道八石山南線 | 平成 19 年 12 月 26 日中越計画区地域森林計画公表 |
| | | 平成 20 年 4 月計画登載予定 |
| ・ 施設の種類（事業区域）、実施主体 | | |
| | ： 市道（長岡市）、長岡市 | |
| | ： 林道（長岡市）、新潟県 | |
| ・ 事業期間 | ： 市道 平成 20 年度～平成 24 年度 | |
| | ： 林道 平成 20 年度～平成 24 年度 | |
| ・ 整備量 | ： 市道 2.2km | |
| | ： 林道 3.6km | |
| ・ 事業費 | ： 総事業費 2,910,000 千円（うち交付金 1,455,000 千円） | |
| | ： 市 道 2,190,000 千円（うち交付金 1,095,000 千円） | |
| | ： 林 道 720,000 千円（うち交付金 360,000 千円） | |

5-3 その他の事業

○ 特産物のブランド化

米の消費低迷など農業をめぐる情勢は厳しいものとなっており、過度に米に依存した農業経営から脱却し、経営の多角化を進めていく必要がある。このため、これまで独自に開発された有機肥料によって作り出される「八石米」や、食味のよい「小国ぎんなん」などを生産している。

今後は、観光交流ネットワークの構築と合せて、これらの特産品のブランド化を進める。

○ へんなかツーリズム（小国地域のグリーン・ツーリズムの愛称）の展開

当地域の法末地区においては、住民主体で「法末たっしやら会」が組織され、交流宿泊施設「やまびこ」の運営や、足湯、天体観測所の建設を実施している。

このような地域住民と連携を図りながら、豊かな自然や資源を活かした「もてなしの里」を目指し、無形文化財「小国和紙」等の各種体験・教育プログラムや棚田を利用した貸農地事業など、地域滞在・体験型観光を推進する。

○ 地域防災マップ整備事業

近年多発している集中豪雨などの都市型災害や新潟県中越大震災の被災経験から、「ひとに優しく災害に強いまちづくり」を目標に、地域住民が主体となり自主防災組織を発足させ、地域における災害危険箇所を調査・確認し、避難場所や避難経路を入れた防災マップを作成する。

6、計画期間

平成 20 年度～平成 24 年度

7、目標の達成状況に係る評価に関する事項

4 に示す地域再生計画の目標については、新潟県及び長岡市が計画期間終了後に必要な調査を行い、評価・検討を行う。

8、地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし